

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 12 号 平成 18 年 11 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

骨粗鬆症も立派な疾患です。

整形外科部長 花林 昭裕



みなさん、骨粗鬆症に対してどのようなイメージをお持ちでしょうか。骨粗鬆症は高齢になった女性が誰でもなるものと理解され、あまり疾患であるという感覚がないのではないのでしょうか。恥ずかしながら整形外科医である私もつい数年前まではそのような考えを持っていました。しかし、あるときこう考えました。高齢者が内科の先生のところに受診すれば、血圧を測定し、そこで高血圧と診断されれば脳出血などの予防のために、降圧剤を処方されるでしょう。また、血液検査によって高脂血症が見つければ、心筋梗塞、脳梗塞の予防のために、高脂血症治療剤を処方されると思います。骨粗鬆症を持っている高齢者は、転倒などの軽微な外傷によって容易に骨折をきたします。脳出血、心筋梗塞、脳梗塞ほどは致命的な疾病ではありませんが、その骨折から併発する合併症（誤嚥性肺炎、褥瘡など）によって命を落とされる方もおられます。このように考えれば骨粗鬆症も立派な疾患です。

平均的日本人女性はエストロゲンの相対的低下に伴い 45 歳で骨量の低下が始まり、60 歳で骨量減少症、70 歳で骨粗鬆症となります。したがって、せめて 60 歳ごろには一度骨塩定量を行い、若年成人平均値の 75% 以下となれば早期に治療が必要です。食餌、運動などの一般的な指導に加え、薬物療法を併用することにより骨量の減少を遅らせることができます。日本ではカルシウム製剤、ビタミン D、K に加え 2001 年 8 月からビスホスホネート製剤であるアレンドロネート、2002 年 4 月からリセドロネートが発売され、さらに 2004 年 5 月からは閉経後骨粗鬆症に対してラロキシフェンが発売されました。いずれの薬剤も減少した骨量を増加させ、さらに骨折の予防効果も証明されています。

先生方のところに受診された高齢者には、血圧測定、血液検査に加え骨塩定量を同時に行っていただき、骨粗鬆症の基準を満たす方にはぜひ治療を開始ください。

Helicobacter pylori と胃癌

消化器科部長 猪飼 昌弘



この9月に行われた第65回日本癌学会で、「Helicobacter pylori (HP) 抗体陽性者は陰性者より5.1倍胃癌になりやすく、陰性者でもCagA陽性者*を加えると危険度が10.2倍に高まる。」との大規模コーホースタディの結果が発表されました。学会発表に先立ってマスコミ報道も行われ、ご存知の方も多いかと存じます。

(*HP感染偽陰性者。過去にHP感染歴のある者を意味します:HP感染が持続すると胃粘膜萎縮によりHPは生存できなくなり抗体価は低下、陰性化しますがCagAは陽性です。)

以前よりHP感染が胃癌の危険因子であると言われていましたが、その危険度は高くても3倍程度とされていたため、この報告は驚くべきものです。

HP感染はわが国では40歳以上の70%以上、全世界の50%以上が感染している最も感染者の多い感染症であり、1994年には世界保健機構(WHO)から1群の発癌因子に認定されました。胃癌による死亡者数は世界で年間約65万人で、これは肺癌に次いで多い癌死数で世界的な問題となっています。

今回の発表から、予防的治療としてのHP除菌がこの問題を解決する大きな鍵であることが示唆されました。ただし、HP感染による胃癌の発症には、菌体因子や宿主因子、環境因子が関与していると考えられ、発表者も「胃癌は喫煙や食生活による影響も非常に大きい。」と指摘しており、HPの除菌に際しては、「副作用や胃癌予防効果が未知数なため慎重に行うべきだ。」とも述べています。耐性菌の出現、除菌の保険適応の問題なども含め、今後の課題と考えられます。